

令和7年度学校経営の改革方針

学 校 名	津市立朝陽中学校	校長名	岡田 興昌
児童・生徒数 472名	学級数 17学級	教職員数 55名	

1 めざす学校像

学校教育目標 「仲間とともに学び合い、主体的に生きる生徒の育成」

- ・聴き合い学び合う学校・互いに認め合う学校・感性を高め合う学校

2 現状と課題

生徒は授業に意欲的に臨み、部活動や学校行事、生徒会活動にも積極的に取り組んでいる。互いに学び合う関係を大切にしながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりに取り組んでいる。最近の全国学力・学習状況調査の結果を見ると、平均正答率は全国や県の平均に比べ同程度以上ある。また、「学校に行くことが楽しい」「友達と協力するのは楽しい」と回答する生徒の割合が高く、授業や学校行事等で仲間とともに取り組むことに喜びを感じている生徒が多い。しかし、SNS等に費やす時間が長かったり、家庭学習の時間が短かったりするなど、家庭での過ごし方を改善しなければならない生徒が少なくない。

生徒指導面では、全体的に落ち着いてはいるものの、SNSに起因したトラブルへの対応を強いられている。また、生活背景が多様化し、悩みを抱える生徒、学校に行きにくい生徒も少ないととはいはず、個々の状況に応じた対応とそれができる教員の資質向上が必要である。

教職員は、多忙な業務に追われながらも総勤務時間縮減を意識しつつ、生徒への細やかな指導や教材研究、部活動指導等に意欲的に取り組んでいる。

3 重点目標

- (1) 一人一人の自立（自律）に向けた学習指導の充実。
- (2) 他者とのかかわりによって、安心感・達成感及び感性を育む教育の推進。
- (3) その機を逃さない適切な初期対応と組織的な対応による生徒指導の充実。
- (4) 生徒会活動やボランティア活動、部活動など自主活動の充実。
- (5) 教職員の総勤務時間縮減に向けた取り組みの強化。

4 具体的な行動計画

- (1) 一人一人の自立（自律）に向けた学習指導の充実
 - ・学び合う授業を通じて主体的・対話的で深い学びを実現する（年2回以上授業公開）。
 - ・「探究的な活動」の質と「互恵性」の確保に留意しながら総合的な学習の時間を推進する。
 - ・「スタディサプリ」及び「みんなの学習クラブ」等の活用によって学習の個性化を進めるとともに、家庭学習に対する指導を強化して自ら学ぶ力を育む。
 - ・タブレット端末等の使用が効果的な場面では積極的に活用する一方、本物に触れたり、物を作ったりするなどアナログ的な実体験も重視しバランスを取る。
 - ・特別支援教育に係る教育内容の充実を図る。
- (2) 他者とのかかわりによって、安心感・達成感及び感性を育む教育の推進。
 - ・人権尊重を基盤に、学校生活のあらゆる場面で仲間づくりを進め、身近にある「いじめ」や「差別」を自分自身の課題と捉え、その解決のために行動できる生徒を育む。
 - ・日常の学校生活と学校行事を結び付け、教育効果を高める。
- (3) その機を逃さない適切な初期対応と組織的な対応による生徒指導の充実。
 - ・事例検討研修や発生事案の対処を共有することによって個人の対応力を強化する。
 - ・指導方針の協議、複数での家庭訪問、状況の共有など組織的な対応を徹底する。
- (4) 生徒会活動やボランティア活動、部活動など自主活動の充実
 - ・生徒会執行部による学校運営への参画を推進する（校則改正、学校行事の企画）。
 - ・フェスタinかわげ、敬老会などの地域行事を活用し、地域づくりへの参画を推進する。
 - ・部活指導を通じて充実感や達成感を醸成し、学校生活をより豊かなものにする。
- (5) 教職員の総勤務時間縮減に向けた取り組みの強化（業務の内訳に基づいた縮減策）
 - ・授業改善、仲間づくり、生徒指導体制の充実の連動による問題行動の削減と早期解決。
 - ・会議、研修、学期末及び定期テスト時の弾力的な時間割やNO部活による時間捻出。
 - ・採点支援システム、出欠席管理アプリ等の活用。
 - ・適正な部活運営（完全複数顧問体制、部活動指針に則った休養日確保等）と時間短縮。
 - ・教員と保護者の役割分担（朝の登校指導は保護者、下校指導は教員等）。
 - ・職員会議や研修会等の会議時間の短縮（60分以内に終了する会議の割合80%以上）。